

大樹町道の駅『コスモール大樹』において 自動運転実証実験が行われました！



戦略的イノベーション創造プログラム

SIPの一環として政府が取り組んでいる『自動運転実証実験』。2020年までの社会実装を目指し選定された全国の道の駅13箇所順次実証実験を行うものです。その実験拠点として、北海道で唯一 大樹町の道の駅『コスモール大樹』が選ばれ、12月10日～12月16日にかけて実証実験が行われました。今回はその様子をお知らせします！

はじめに..

●自動運転って??

運転手がハンドルを操作しなくても、機械が人間の代わりに自動で運転するシステム。今回実験で使用された車両はGPSと磁気マーカ及びジャイロセンサーにより自車位置を特定して、既定のルートで自動で走行するシステムです。

●期待される効果

食料供給に貢献し、観光等の多面的、公益機能を提供する「生産空間」に人が住み続けられる環境づくりのために、生活の脚の確保や、輸送効率化、観光客のスムーズな移動などの観点から、自動運転が大きく貢献する可能性があります。

●SIPとは??

戦略的イノベーション創造プログラム。府省・分野の枠を超えた横断型のプログラムで、科学技術イノベーション総合戦略及び日本再興戦略において、総合科学技術会議が司令塔機能を発揮し、科学技術イノベーションを実現するため創設したものです。

実験概要



今回は**ピンク**と**赤**のルートで**レベル2・レベル4**にて走行します。

冬道での自動運転実験は**道内初**の試みです！

先進モビリティ株式会社



「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道))
「路車連携型」技術
(GPSと磁気マーカ及びジャイロセンサーにより自車位置を特定して、既定のルートで走行)
定員: 20人
速度※: 35 km/h 程度 (最大40 km/h)

レベル4: 運転手が運転席に不在で、車両側が運転操作を実施 (ただし、交通規制により一般車両を排除した区間に限定)

レベル2: 運転手は運転席に着席するが、ハンドル等を操作せず、車両側が運転操作を実施 (ただし、緊急時は運転手がハンドルを握るなど運転操作に介入)

現地レポート



- 12/10
①開始式テープカットの様子
②実験開始式の様子 (屋内式典)
③来賓を乗せて発車する第1走目のバス



- 12/14
④・⑤
レベル4 (運転席に運転手が居ない状態)で走行する様子